

第2回スギ等の国産材型枠用合板技術検討委員会の概要について

1 日時 平成21年7月23日(木) 14:00~16:00

2 場所 中央合同庁舎4号館1219、1220会議室

3 議題

(1)国産材型枠用合板に係る論点について

(2)技術開発等の方向性について

(3)質疑

4 概要

- ・ コンクリート型枠用合板(以下、型枠用合板という。)の国産材への転換に向けて、品質、価格、歩掛、仕様書、製造上の問題点等について審議を行った。
- ・ また、国産材型枠用合板の技術開発の考え方、技術的な課題、具体的な技術開発方法等について審議を行った。

5 委員の主な発言内容

- ラワンからスギ等の国産材に変えると、強度が低い、吸水による波打ちの発生等で転用回数が少なくなる等の問題があり、この点について技術開発を進める必要がある。
- 単板の乾燥や塗装等において掛かり増しとなり、ラワン合板等に比べ国産材型枠用合板では価格が高くなるのが実情である。
- ユーザーとしては、国産材型枠用合板の利用に賛成だが、品質や性能、価格はラワン合板と同等のものが望ましい。
- 工事の一例で、合板の材料をラワンと国産材とで比較するシミュレーションを行ったところ、型枠材料費の差は全体工事費の中で大きい割合ではなく、価格差の判断は、政策上の扱いの問題ではないか。
- カーボンフットプリント制度が推進されるなど、環境貢献度による評価の方向性が強まる中で、工事の資材についての考え方も将来性に影響があると思われる。
- 国有林では積極的に使っていく方向で取り組んでいきたい。国が責任をもって行う事業であるので、施工性、強度等について外部に対してキチンと説明できることを確認した上で使うことになる。また、治山工事等では間伐材を「まく板」などとして既に利用しているので、施工箇所の状況に相応しいものを使い分けていくこととなるが、国有林が先行的に使用した成果やデータを積極的に提供することを通じて、利用促進での先導的な役割を果たしていけると考えている。
- 国として、国産材型枠用合板を後押しするような施策を進めていただきたい。

6 その他

第3回は8月24日(月)に開催し、中間とりまとめを行う予定。